

東京電力ホールディングス(株)福島第一原子力発電所
2019年度 パフォーマンス向上会議情報(2019年9月30日(月)分)

◆不適合とは、本来あるべき状態とは異なる状態、もしくは本来行うべき行為(判断)とは異なる行為(判断)を言います。法律等で報告が義務づけられているトラブルから、発電所の通常の点検で見つかる計器や照明の故障など、広い範囲の不具合が対象になります。

2019年9月30日のパフォーマンス向上会議で審議された不適合は、下記のとおりです。

番号	不適合内容	グレード	発見日
1	<p>【6号機増設淡水化装置の取水槽水位計の警報発生について】 6号機増設淡水化装置の取水槽の水位が、適正な範囲にあるにもかかわらず、「取水槽低水位」の警報が発生。手動にて複数回レベルスイッチの動作確認を実施したが、警報は発生しなかった。 また、レベルスイッチを点検したが異常は確認出来なかったことから、一過性の不良と推定。 改めて、今回と同様のことが起きても、手動復帰できることから系統への影響はない。 今後、点検修理予定。</p>	GⅢ	9月24日
2	<p>【6号機非常用ディーゼル発電機(6B)の補機冷却系サージタンクの現場水位計の指示不良について】 6号機非常用ディーゼル発電機(6B)の補機冷却系サージタンクの現場水位計の指示と、点検・校正が終了した補機冷却系制御盤の水位計の指示に差異が生じていることを確認。 6号機非常用ディーゼル発電機(6B)の性能への影響は無し。 今後、点検・校正予定。</p>	GⅢ	9月25日
3	<p>【1～4号機使用済み燃料貯蔵プールの車載式注水ポンプ用発電機の自動停止について】 1～4号機使用済み燃料貯蔵プールの代替注水設備として配備している車載式注水ポンプ駆動用発電機の定例運転確認を実施したところ、約1時間後に「冷却水温度高」の警報が発生し、自動停止を確認。 原因は調査中。 当該設備の点検・修理が完了するまでは、代替発電機を準備し、車載式注水ポンプが使用可能な状態とする。</p>	GⅢ	9月24日